

延長のような心のこもった料理を作ってくださいています。利用者の方々も「今日のサラダうどんは誰が作ったん?」「明日のナシゴレンってどうやって作るん?」等、興味津々。美味しそうなおいにつられて、ついつい食堂をのぞきに來てしまう利用者をたびたび見かけます。実際に食事を作っている姿を確認できる、これも直営給食の良い点でしょうか。



給食はセルフサービスとなっており、時間内であれば好きな時間に好きな席で食べることができます。「今日は誰と食べようかな?」と空いている席を探し、たくさんおしゃべりをしながら賑やかに食事をされています。

月に1~2回はセレクトメニューを実施しており、事前に食べたいおかずを選んで予約、当日は注文したおかずを受け取るというシステムですが、毎回どっちにしよう?と真剣に悩む方が多いようです。7月は中華丼と木の葉丼のセレクト、8月はかつとじ丼とソースカツ丼のセレクトです。また、自分で選んで食べる楽しみを知って頂けるよう、できるだけパンやフルーツは毎回選べるようにしています。そして月に1回はサラダバイキングも実施しています。4種類のサラダの中から食べたいものを食べただけ自分で盛り、好きなドレッシングをかけていただきます。普段は野菜嫌いな方が、バイキングになると張り切ってかわりされたりすることも。外食でバイキングに行く際の練習にもなっており、きちんとマナーを守ることができています。



その他、ダイエットをしたい方、固いものを噛むことが苦手な方、病気のために食事の変更が必要な方、どうしても食べられないものがある方、アレルギーをお持ちの方の給食も、相談の上、個別に対応させていただきます。給食はみんな、同じものを同じ量食べるもの…ではなく、それぞれの年齢や体格、嗜好に合わせた給食提供を心掛けています。

これからも「今日の給食おいしかったね!」と笑顔で話す利用者の方や職員の顔を毎日見ることができるよう、厨房スタッフ一同、力を合わせ、心をこめて給食を作り続けたいと思います。

機会があれば、ぜひ東成育成園の給食を食べに來てください。



会員向け学習会を開催しました

7月の勉強会は昨年に引き続き、ふせ支援ネットワーク代表で社会福祉士である前川敦氏に「成年後見制度のメリット・デメリット」についてご講演いただきました。

前川氏ご自身は、現在10人の被後見人を受け持っているという事で、様々なエピソードを交えて、わかりやすく説明して頂きました。

成年後見人の役割は、判断能力が低下した人、意思能力に障がいがある人等の財産を侵害から守り適切に管理する財産管理と、本人の財産を踏まえて本人の意思に基づいた適切な生活支援を行う身上監護の2点になります。これに加えて、代理権や同意権など、本人の意思の代弁も行います。

まず、財産管理は、あくまでも本人の生活のために行なうべきであるという事です。ある被後見人の方がベッドを購入することが必要となった時、利用している事業所職員が中古品を探して購入されたようです。安価で購入できた事を、あたかも自分の手柄のように報告されたそうですが、前川氏の見立てでは、この被後見人の方の財産には余裕があるので、同じ購入するのであれば新品を購入した方が良かったのではないかとこの話しを聞いた時、会場内も笑いに包まれました。中古より新品の方が良いのはもち